

埼玉トヨペット Green Brave

**AUTOBACS
SUPER GT
2020 SERIES**

2020 RACE REPORT

#52 埼玉トヨペット GB GR スーブラ GT

2020年11月28日(土)~29日(日)

AUTOBACS SUPER GT Round8

たかのこのホテル FUJI GT300km RACE

(静岡県小山町)

■ ■ ■ ■ 圧巻のポールトゥウィン！ シーズンランキング2位を獲得 ■ ■ ■ ■

最終戦は恒例の“ノーハンデ戦”。前戦で搭載されていた 50kg のウェイトハンディは降ろされており (BoP ウェイトの 25kg は引き続き搭載)、ノーハンデで優勝した開幕戦の再現に期待がかかる。土曜日の天候は晴れ。9時から行われた練習走行では、川合選手が 1 分 35 秒 740 をマーク。ブリヂストン勢のトップ、GT300 全体の 3 位につけており、GR スーブラ GT の仕上がりは順調そのもの。ノックアウト予選 (Q1) のドライバーは吉田選手。吉田選手は予選開始の合図とともにコースイン。タイヤを温めながら周回する。吉田選手は 4 周目に 1 分 36 秒 156 のトップタイムをマーク。タイヤを温存するためにピットへ戻る。吉田選手は A 組 2 位で Q1 を突破し、川合選手にバトンをつないだ。Q2 では川合選手が 4 周目にコースレコードを更新する 1 分 35 秒 068 をマーク。堂々のトップに立つも、#61BRZ のすぐ後ろでアタックを継続。先にコントロールラインを通過した #61BRZ が川合選手のタイムを上回ったが、その直後に川合選手が 1 分 34 秒 665 をマークし、逆転。GR スーブラ GT 初のポールポジションが確定した。低い気温がタイムを押し上げたのは間違いないが、圧倒的な韋駄天ぶり。今シーズン 2 勝目に向け、大きな一歩を踏み出した。

日曜日の天候は曇り。気温は前日より低く、肌寒く感じる。チームはスタートドライバーに川合選手を起用。今年 4 回目のタイヤ無交換作戦を実行する。急遽追加された 1 周を含む 3 週のフォーメーションラップの後、レースはスタート。川合選手はトップで 1 コーナーに進入するも、タイヤの温まりが早い #61BRZ の先行を許し、2 位で 1 コーナーを立ち上がる。1 周目終了時の 2 台の差はコンマ 5 秒。川合選手のペースは #61BRZ より速く、9 周目の 1 コーナーで #61BRZ をインからパス。トップに振り返る。川合選手はみるみるうちに #61BRZ との差を広げ、19 周終了時の 2 台の差は 10 秒以上となる。同じ頃、上位を争うライバルがピットに入り始めるが、川合選手は走行を継続。慌てずにベストのタイミングをしっかりと見極め、27 周目の終わりにピットイン。吉田選手に交代し、給油のみでピットアウトする。吉田選手の順位は 4 位だが、上位はみなピットに入っておらず、実質的にはトップのまま。30 周目に 3 位、34 周目に 2 位。さらに 38 周目の終わりにトップのマシンがピットに入ったため、難なくトップに復帰する。吉田選手はマシンとタイヤを労りながらも、1 分 39 秒台で周回。2 位の #65 メルセデス AMG との差をグングン広げ、独走状態となる。吉田選手は 40 秒以上のマージンを築き、余裕のチェッカー。2 位に入った #56GT-R がチャンピオンを獲得、Green Brave はランキング 2 位となった。レース後、Green Brave はもっとも活躍したメカニックに贈られる「ZF Award」や「令和の富士マイスター」など、たくさんの賞を受賞。笑顔で 2020 年シーズンを締めくくった。

決勝結果 (GT300)

#52 埼玉トヨペット GB GR スーブラ GT

(吉田広樹/川合孝汰)

決勝：1 位 (61 周、1 時間 42 分 00 秒 517)

予選：1 位 (Q2：1 分 34 秒 665)

GT300 決勝結果

順位	車名(車両)	周回数
1 位:	埼玉トヨペット GB GR Supra GT(トヨタ GR スーブラ GT)	61
2 位:	リアライズ 日産自動車大学校 GT-R(日産 GT-R NISMO GT3)	60
3 位:	ADVICS muta MC86(トヨタ 86 MC)	60
4 位:	LEON PYRAMID AMG(メルセデス AMG GT3)	60
5 位:	PACIFIC NAC D'station Vantage GT3(アストンマーティン ヴァンテージ AMR GT3)	60
6 位:	TANAX ITOCHU ENEX with IMPUL GT-R(日産 GT-R NISMO GT3)	60
天候:曇、路面:ドライ ※トップ 6 まで(出走 29 台)		



DRIVERS VOICE



第1ドライバー吉田広樹

(予選後) Q1の目的はQ2につなげることと、マシンのバランスを確認することでした。ウォームアップの仕方とか、気づいたことを孝汰に伝え、孝汰もフリー走行でやっていたセッティングを自分でアジャストし、それがすべてうまくいったQ2のタイムだったので、すごくいい流れだったと思います。

(決勝後) ぼくのスティントではクルマのバランスも崩れてきていて、後ろとのギャップを聞きながら、無理しないで走り、この前のレースみたいに後ろが詰めてきているわけではないので、ギャップだけしっかり保とうと思って走りました。予選でポールを獲得、ポールトゥウィンでき、みんなミスをせずにやれたので、1年の集大成にできたレースだと思います。ただ、それほど意識していなかったとはいえ、チャンピオンが見え隠れしていたので、ランキング2位はちょっと悔しいですね。



第2ドライバー川合孝汰

(予選後) 前のクルマのスリップも使えまして、予選に行く時、チームのみなさんと決めたセットの方向性が良かったと思います。練習で3番手にいましたし、チーム的にもいい方向だと思っていました。セクター3のタイムが気になっていたのですが、最後にタイムを出せて良かったです。やることをしっかりやり、歯車が全部合ったと思います。

(決勝後) フォーメーションラップが1周伸びたのは本当にありがたかったです。タイヤを温めてスタートしたのですが、1コーナーが思ったより曲がらなくて、BRZに先行されたのですが、序盤はガソリンが多く、クルマも重たいので、無理はしませんでした。途中からうちの方が速そうだったので、一発で決められました。今年1年たくさんのことを学ばせてもらったので、そういった経験があった上でのレースメイクだったと思います。



チームランキング GT300

順位	ゼッケン	チーム名	ポイント
1位	56	KONDO RACING	95
2位	52	埼玉トヨペット Green Brave	82
3位	65	K2 R&D LEON RACING	81
4位	55	ARTA	67
5位	11	GAINER	65
6位	61	R&D SPORT	64
トップ6まで			



PARTNERS



アルパインマーケティング株式会社



株式会社 Team Iwakiri Japan



株式会社ハッポーライフ彩生



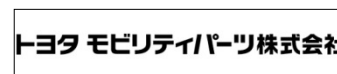
株式会社エヌ・ティ・コーポレーション



株式会社ドーム



埼玉スリーボンド株式会社



トヨタモビリティパーツ株式会社

※50 音順

1年間ご声援ありがとうございました